

生活支援コーディネーターとは

「生活支援コーディネーター」と「協議体」は、新しい総合事業を推進する根幹である。

平成27年11月26日
枚方市福祉部高齢社会室

活動理念

1. **利用者への支援やサービスの質に関する理念**
2. **地域の福祉力の形成に関する理念**
3. **地域社会の持続可能性に関する理念**

1.利用者への支援やサービスの質に関する理念

- 高齢者が地域で生きがいや役割を持ち、尊厳を保持し、高齢者が地域で自分らしい生活を送ることができるように、その人の状態に最適な生活支援等サービスの活用を支援する。
- 生活支援等サービスの質を担保する(役立つ、使いやすい、信頼がおける、自立や社会参加に資する、ソーシャルサポートを維持する)。

2. 地域の福祉力の形成に関する理念

- **地域のできるだけ多くの主体や元気な高齢者の参加を得てサービスが提供できる体制を整える。**
- **支え上手、支えられ上手を増やす。**
- **地域の参加を広げ、地域の力量を高める。**
- **地域とともにサービスや活動を創出し、一緒に運営していく。**

3. 地域社会の持続可能性に関する理念

- 皆で資源を持ち寄り、賢く効率的に財源を使う。
- 地域の実情や将来の介護保険制度等の姿をよく考える。

生活支援コーディネーターの役割

- 既存の社会資源の把握や整理
- 生活支援の担い手の養成
- 社会資源やサービスの開発
- 関係者のネットワーク化
- ニーズとサービスのマッチング
- 市町村や地域包括支援センターとの連携

生活支援コーディネーターの資格要件

- 地域における助け合いや生活支援サービス等の活動実績があり、市民活動への理解、多様な理念を持つ地域のサービス提供主体等との連絡調整が適切に担うことができる者
- 中間支援等を行う団体
- 国や都道府県が実施する研修を修了した者
- 常勤、非常勤、臨時職員、ボランティア等雇用形態等は問わず、地域の実情に応じて可
- まずは「協議体」の活動を通じた中で中核となりうる人物を選出するなど、適任者を選ぶ。

必要な能力

- 地域全体を見回すことができる。
- 生活者としての視点から地域のニーズをキャッチできる。
- 幅広く世の中の流れをキャッチできる。
- 少なくとも時代の2、3歩先を見ることができる。

期待される資質

- 聴きて上手であること
- 要支援者の視点・目線を大切にできること
- 高齢者福祉に情熱と理解力があること。
- 人脈、ネットワークづくりに意欲的であること
- バランス感覚、持続力のあること
- 他人の評価ができ、時に自分に対しても客観的な見方ができる人

成功のポイント

- キーマンを見つける。
- 協力者を見つける。
- 小さな成功を積み重ねる。

生活支援コーディネーターの配置

- 第1層 市全域
- 第2層 日常生活圏域(13圏域)
- 第3層 サービス提供主体

【留意点】

- 特定の団体や機関だけに行政が丸投げでお任せして特別な地位を与えることは避ける。
- 特定の団体による特定の役職という充て職もNG
- 地域の公益活動の視点、所属団体のためではなく、地域全体のために協働しながら役割を果たす者

枚方市の 生活支援コーディネーター(案)

- 第1層 第1層協議体事務局
(高齢社会室・地域包括支援センター)
- 第2層 第2層協議体から推薦
↓
第1層協議体で選出⇒研修受講
- 第3層 介護支援専門員(ケアマネジャー)
(研修受講者から伝達研修)